

知人・友人編
(災害発生数ヶ月後)
悪い対応

【知人友人編（災害発生数ヶ月後）】

■悪い対応

半壊した住宅を直しながら生活している田中さん。休日に田中さんの様子を見に、友人の佐藤さんが自宅を訪ねると、疲労困憊している田中さんに気付きます。



知人：だいぶ片づいたね

女性：そうなの。この辺全部ぐちゃぐちゃだったから

女性：（大きなため息をついている）はあ…

知人：ため息ついちゃって、どうしたの？

女性：疲れちゃったんだよね、もう辛くて…仕事も大変で。災害後、仕事が増えてね…もう疲れちゃった…



知人：震災後は、みんな仕事が大変だってよ。非常時だから、仕方がないよ。

あなただけじゃないのよ。

女性：そうかあ。でも、家の片づけもまだなんだよね。休日にしかできないから…

知人：なんか、みんな、そうみたいだね。

女性：両親は高齢だから、面倒もみなくちゃいけないし、家の修理も業者に頼んでやってもらっている状態だから、手続きもあれもこれもあって、仕事の合間に行かなきゃならないから大変なんだ



知人：手続きくらい、ご両親にやってもらえば？

あなたも仕事があって大変でしょう。

それくらい大丈夫なんじゃない？高齢っていっても、手続きくらいはできるでしょう。

お願いしたら？少し楽になるんじゃない？



女性：……両親も体調壊して、大変なんだ。

だから、お願いできなくてだ。本当に大変なんだ。（泣く）

知人：泣きたいのはよくわかるけど、泣いても、前には進めないんだよ。前を向いて歩いていかなきゃ。

女性：もう、とても疲れて、そんな力でないよ。夜も眠れないし…憂鬱だし…本当にしんどいんだ。もう何もかもいや。死んでしまいたいくらい…

知人：また、そんなこと言って。ダメだよ、そんなこと言っちゃ。今を大切に生きなきゃ。

女性：……

知人：それに、震災から何か月経つと思っているの。そろそろ元気になってもいいんじゃない。頑張ってちょうだいよ。

女性：……わかった……

